

猛暑の後は台風の連鎖。暑くなりすぎた太平洋のせいだそうです。El Mare Pacificumとは、マゼランさんもとんだ勘違いで名付けたものだと思います。

早いもので、今年は2年に一度の常任委員選挙の年となります。投票用紙の御返送、どうぞよろしくお願いいたします。Joycean Japanの締め切りも迫っております。ご投稿をお待ち申し上げます。

Topics

- ▶ 常任委員選挙のご案内
- ▶ Joycean Japan 第25号 投稿のご案内
- ▶ 第26回大会 研究発表者募集のお知らせ
- ▶ 研究書誌情報のお祝い
- ▶ コラム——Finnegans Wake 研究会

常任委員選挙のご案内

- ◆ 下記抜粋の会則に基き、来年（2014年）6月の総会では、2年任期の新常任委員が選出されます。事務局ではその候補者を、現在の常任委員会に推薦いたします。推薦のために事務局は、全会員による選挙を行い、上位得票者若干名を選出いたします。
- ◆ 常任委員は「若干名」となっておりますが、現在9名で運営しております。今回の選挙でも、例年通り9名に投票をお願いいたします。
- ◆ 同封の投票用紙名簿の左欄に、9名を上限として、○をお付けください。（10名以上に付けられた投票用紙は無効となりますので、お気をつけください。）
- ◆ 投票用紙名簿は、同封の事務局宛封筒に入れ御投函ください。（御住所・御氏名は無記載で結構です。）
- ◆ 選挙期間は、本ニューズレター到着日より11月22日（金）までとさせていただきますので、どうぞよろしく御協力ください。（11月22日消印有効）

日本ジェイムズ・ジョイス協会会則（抜粋）

（役員）

第6条 この会に次の役員及び会計監査を置く。

会長1名 常任委員若干名 事務局長1名 会計監査2名

第7条 会長、常任委員及び会計監査は総会において選出し、事務局長は常任委員の中から会長が指名し、会計の任にあたる。

第8条 会長はこの会を代表し、常任委員会を召集し、常任委員会の運営にあたる。常任委員会はこの会の活動の立案・組織・運営・および機関誌の編集にあたる。

第9条 役員及び会計監査の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

なお、現在の常任委員は以下の9名の方々です。

浅井学、吉川信、清水重夫、須川いずみ、道木一弘、戸田勉、結城英雄、横内一雄、若島正

Joycean Japan 第 25 号 投稿の御案内

例年通り、査読対象論文の投稿締切は 11 月 30 日(消印有効)となっております。今年の第 25 回大会で口頭発表された方々はもちろんのことながら、それ以外の会員からの投稿も受け付けております。

論文投稿規程

1. 投稿資格は、会費を納入している会員が有する。
2. 字数・書式。日本語の場合、14,000 字以内(タイトル・註などを含む)。英語の場合、半角で 28,000 ストローク以内(タイトル・註などを含む)。双方とも、半角で 2,400 ストローク以内の英文サマリーを添付のこと。
書式は、『MLA 英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に基づくことを原則とする。
3. 11 月末日までに、事務局に郵送すること(当日消印有効)。添付ファイルによる提出は認めない。なお、デジタル情報を同時に提出する必要はないが、採用された論文については、後日提出が求められる。
4. 著者校正は初校のみとする。

なお、第 25 回大会の「シンポジウム」で発表されたみなさんの報告原稿は、原則 2 月末日(消印有効)を締め切りとさせていただきます。それぞれのオーガナイザーには、原稿の取り纏めをお願いいたします。(ご質問は事務局までお願いします。)

第 26 回 日本ジェイムズ・ジョイス協会 研究大会 研究発表者募集のお知らせ

第 26 回研究大会は、2014 年 6 月 14 日(土曜)、法政大学・市ヶ谷キャンパスで行われます。

会場・プログラムの詳細は 4 月の Newsletter でお知らせいたしますが、内容は(1)研究発表、(2)シンポジウム 1、(3)シンポジウム 2、となる予定です。

つきましては、(1)の研究発表者を募集いたします。

発表を希望される会員は、800 字程度の発表要旨を添付のうえ、12 月末日までに事務局へお送りください。E-mail でのお申込みも受け付けております。

発表時間は 20~25 分、質疑応答は 10~15 分程度を予定しております。

お送り頂いた発表要旨は、2014 年 1 月に行われる常任委員会での査読を経て、採用が決定されます。(司会者もこの常任委員会で確定します。)要旨査読通過者には、5 月中に、司会者宛て発表原稿をお送り頂くことになります。

応募者の方への詳細は追って御連絡いたします。

研究書誌情報提供のお願い

2013 年以降の著書・論文はもちろんのこと、それ以前のものでも構いません。*Joycean Japan* のバックナンバーに未だ掲載されていない Joyce 論でしたら、どうぞご遠慮なくお知らせください。

○雑誌掲載論文の場合

- ・ 著者名
- ・ 論文名
- ・ 掲載誌（発行元）および号数
- ・ 出版年・月

○単行本の場合

- ・ 著者名
- ・ 書名（共著書の場合は、主要著者もしくは編者名、および「執筆章題」）
- ・ 出版社
- ・ 出版年・月

上記を記載のうえ、e-mail にて事務局アドレスまでお送りください。メールのタイトルは「JJ 掲載用書誌情報」として頂ければ幸いです。もちろん、ハガキ・封書でのお知らせも承ります。

コラム

Finnegans Wake 研究会

吉川 信

ここ数年 *Joycean Japan* には研究会からの報告が掲載されておらず、しかも古くからの研究会となるとその存続すら——いや存在すらも——多くの若い会員には知られていないかもしれない。ならば将来の研究の発展・継承のためにも、そろそろこの場を借りて紹介しておくべきではなかろうか、と思われた。ただでさえ esoteric な趣のあるこの作品を、ごく少数の、しかもジョイス協会設立時のメンバーが主になってちまちまと読んでいる集団なのだから、秘教的というよりもはや秘密結社的な集まりと怪しまれ、若手の研究者も近寄り難い年配オタク集団と疑われているような気がしてならない（まあ、実際そうかもしれぬ）からである。

来歴を語れば 1989 年の創設時に遡る。コアとなる研究会を発足させるべしとは初代会長の提案、これを受けて初代事務局長が『ユリシーズ』読書会を始めた（これについてはいつぞやの編集後記で述べた）。これが 2 年後には『フィネガンズ・ウェイク』読書会へと発展していく。そこで主たる会場となったのが、当時の東京商船大学、現在の東京海洋大学・越中島キャンパスである。だがこの越中島という駅、某鼠樂園行きの沿線ではあるものの、7～8分も歩けば地下鉄・門前仲町駅に辿り着く。つまりはこのキャンパスの立地が決定的だった。低価格な赤提灯には不自由しない、知る人ぞ知る下町ネオン街が、キャンパスの目と鼻の先なのだ。午後

2 時もしくは 3 時から始まる研究会も、夕方 5 時、6 時までは嫌でも続く。続けないと店が開かない。いや（まじめな話）あのテキストに頭を抱えていれば 3 時間はあっという間に過ぎる。

およそ四半世紀前に第一部第一章を読解し始めた記録は、*Joycean Japan*, No.3 から No.9 に掲載されている。もちろんその後も会は続き、約 10 年でこの章読了——もちろん「了」は言葉の彩に過ぎない——、第一部第二章にもいったような気がする。発表方法も様々に変わり、たとえば各メンバーが各章の要約・梗概を作成したこともあった（担当者によって注目するナラティブは様々であるし、参照した文献もそれぞれだったから、形式に纏まりはなく、梗概としてもけっしてわかりやすいものではない。だがとりあえず、個人的に製本し手元にはある。もちろんメンバー以外には公表されていない）。こうした時代の副産物として、同メンバーによる『ジェイムズ・ジョイス事典』（松柏社 1997 年）という翻訳が生まれたことは附言すべきであろう。いっぽう、学会プログラムとしては 1993 年の第五回大会から「FW ワークショップ」が始まり、その後新しく FW I-8 読解グループ（通称「ALP の会」）も立ち上がった（これも現在まで継続中である）。そしてジョイス協会発足から 25 年を経た現在、当初からの FW 研究会（別名「門仲の会」？）は、第四部すなわち最終章に取り組んでいる（もうかれこれ 8 年にはなろうか。とは言えれっきとした「キセル精読」である）。第一部第一章に 10 年以上かかったのだから、大学のあり方が変わり、勤める人間の生き方も変更を余儀なくされている日本でのこと、第一章なみに短い章とはいえ、その倍以上の年月が見込まれる。そしてメンバーの誰もが、それを覚悟している。

先回は第四部の 609 ページ 23 行目まで辿り着いた。このセクション（創作過程から見れば第 3 セクション：607.23-614.18）、そろそろ夜明けを迎えようかという話から始まっていたのだが、いつの間にか目の前には、St Patrick とドルイド僧の対決が迫っている。この聖人が土着の原始宗教を一掃しアイルランドを蛇のいない国にしたことは周知の通りだが、それがアジア制覇を狙う日本人の役柄まで背負わされているとなると、読み方・捉え方は時代とともに変わる。テキストの通時性と共時性に思いを馳せながらも、20 年以上に亘る読書会は読み手の通時的な変化とも無縁ではいられない。となると、これはそもそもの最初から、読者を四次元世界へと連れ出すテキストだったのか、とあらためて思う。すっきり理解できない研究会後の千鳥足は当然の帰結。時空の流れに素直に従えば、そろそろ 25 回目の忘年会を迎える。



事務局情報

今年度会費納入済
の会員で、*Joycean
Japan No.24* が未着
の方は、事務局まで
お知らせください。
(e-mail 可)



日本ジェイムズ・ジョイス協会 事務局

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

群馬大学教育学部

吉川信研究室内

メールアドレス: sean_jjsj_since08june(at)ybb.ne.jp

〔送信の場合は(at)を@に替えてください〕

ゆうちょ銀行 口座番号: 記号 10430 番号 1854541

(名義 日本ジェイムズ・ジョイス協会)